



2023年1月30日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証グロース)
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰
(電話番号 03-6551-2601)

**(開示事項の経過)当社子会社の(株)安評センターとアンジェス株式会社との
共同研究開発の進捗に関するお知らせ**

当社子会社の株式会社安評センター（代表取締役 福永健司、静岡県磐田市、以下、安評センター）とアンジェス株式会社（代表取締役社長 山田 英、大阪府茨木市、以下、アンジェス）との間ですすめている薬剤スクリーニングを目的としたトランスジェニックゼブラフィッシュ[※]モデル（以下、TGZF）の共同研究開発（以下、共同開発）の進捗状況について、下記のとおりお知らせいたします。

【TGZF の開発の状況と見通し】

安評センターは、アンジェス株式会社と共同開発（2022年11月10日付リリース『当社子会社の(株)安評センターとアンジェス株式会社との共同研究開発に関するお知らせ』）において、NF- κ B デコイオリゴDNA を評価するためのTGZF 作製用ベクター開発が終了し、TGZF 作製を開始します。今後、2023年3月中にTGZF (F0世代) が完成する見通しです。その後、薬剤スクリーニング可能なTGZF を樹立し、安評センターは、当該TGZF モデルを用いた創薬スクリーニングサービスを広く展開する予定であり、また、アンジェスは当該TGZF 開発過程で取得されたデータを開発品の研究開発に反映させる予定です。

本共同研究開発による2023年3月期の連結業績に与える影響は軽微ですが、CRO事業の拡充を通じて創薬支援事業領域の拡大を図り、中長期的な企業価値最大化に向けて取り組んでまいります。今後開示すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

◆ご参考

※ ゼブラフィッシュ

ゼブラフィッシュは、ヒトとゼブラフィッシュ間の疾患ゲノム類似性は約80%などの特徴がありヒトへの外挿性が高く、スクリーニングが簡便なこともあり需要が高まっています。また、安評センタージェノミクス事業部の専門領域であるトランスジェニ

ック（遺伝子改変）技術を応用したトランスジェニックゼブラフィッシュの開発や幅広いヒト疾患モデルなどの開発が進み、2021年度129億円（1USD=144JPY）から2028年には334億円に拡大すると予想されています（Global Information “ゼブラフィッシュの世界市場（2022年）”引用）。

以 上